



橋北中 HP



卒業する皆さんと来年度橋北中を支える皆さんへ

## みんな違って、みんないい。

先日、3年生を送る会が終了しました。生徒会役員の頑張りのもあり、橋北中らしいアットホームな温かい時間が過ごせました。いよいよ、3年生は卒業式を迎えますね。みなさんの橋北中を愛する気持ちや最上級生としての責任感是十分感じる事ができましたよ。今年1年、橋北中をリードしてくれてありがとう！そこで、3年生最後の学校通信を贈ります。長い文章となります。がんばってお読みください。

### 弱者を抹殺する？！

ある日のYAHOO 知恵袋より（中学生が読みやすいように少し修正）



iri\*\*\*\*\*さん  
2011/6/1 12:32

不謹慎な質問ですが、疑問に思ったのでお答え頂ければと思います。  
自然界では「弱肉強食」という単語通り、弱い者が強い者に捕食される。  
でも人間の社会では、なぜ、それが行われないのでしょうか？  
文明が開かれた頃は、種族同士の争いが行われ、弱い者は殺されて行きました。  
ですが、今日の社会では弱者を税金だのなんだの、生かしています。  
優れた遺伝子が生き残るのが自然の摂理ではないのですか。  
今の人間社会は理に適ってないのではないのでしょうか。



人権などの話を出すのは今回はお控え頂ければと思います。



ベストアンサー



mex\*\*\*\*\*さん  
2011/6/1 18:19

え〜っと、、よくある勘違いなんです、自然界は「弱肉強食」ではありません  
弱いからといって喰われるとは限らないし、強いからといって食えるとも限りません  
虎は兎より強いですが、兎は世界中で繁栄し、虎は絶滅の危機に瀕しています

\*\*\*

自然界の掟は、個体レベルでは「全肉全食」で、種レベルでは「適者生存」です  
個体レベルでは、最終的に全ての個体が「喰われ」ます  
全ての個体は、多少の寿命の差こそあれ、必ず死にます  
個体間の寿命の違いは、自然界全体で見れば意味はありません  
ある犬が2年生き、別の犬が10年生きたとしても、それはほとんど大した違いは無く、どちらでもいいことです

種レベルでは「適者生存」です

この言葉は誤解されて広まっていますが、決して「弱肉強食」の意味ではありません  
「強い者」が残るのではなく、「適した者」が残るんです

（「残る」という意味が、「個体が生き延びる」ではなく、「遺伝子が次世代に受け継がれる」の意味であることに注意）  
そして自然というものの特徴は、「無限とっていいほどの環境適応のやり方がある」ということです  
必ずしも活発なものが残るとは限らず、ナマケモノや深海生物のように極端に代謝を落とした生存戦略もあります  
多産なもの少産なもの、速いもの遅いもの、強いもの弱いもの、大きいもの小さいもの、、、

あらゆる形態の生物が存在することは、ご存じの通り

「適応」してさえいれば、強かろうが弱かろうが関係無いんです

そして「適者生存」の意味が、「個体が生き延びる」という意味で無く、「遺伝子が次世代に受け継がれる」の意味である以上、ある特定の個体が外敵に喰われようがどうしようが関係ないんです

10年生き延びて子を1匹しか生まなかった個体と、1年しか生きられなかったが子を10匹生んだ個体とでは、後者の方がより「適者」として「生存」したことになります



「生存」が「子孫を残すこと」であり、「適応」の仕方が無数に可能性のあるものである以上、どのように「適応」するかはその生物の生存戦略次第ということになります

人間の生存戦略は、、、「社会性」

高度に機能的な社会を作り、その互助作用でもって個体を保護する

個別的には長期の生存が不可能な個体（＝つまり、質問主さんがおっしゃる"弱者"です）も生き延びさせることで、子孫の繁栄の可能性を最大化する、、、という戦略です

どれだけの個体が生き延びられるか、どの程度の"弱者"を生かすことが出来るかは、その社会の持つ力に比例します  
人類は文明を発展させることで、前時代では生かすことが出来なかった個体も生かすことができるようになりました  
生物の生存戦略としては大成功でしょう

「優秀な遺伝子」ってものは無いんですよ

あるのは「ある特定の環境において、有効であるかもしれない遺伝子」です

遺伝子によって発現されるという"形質"が、どういう環境で生存に有利に働くかは計算不可能です

例えば、現代社会の人類にとって「障害」としかみなされない形質も、将来は「有効な形質」になってるかもしれません  
だから、可能であるならばできる限り多くのパターン<sup>カタマリ</sup>の形質（障害＝つまるところ形質的イレギュラーですが）を抱えておく方が、生存戦略上の「保険」となるんです

（「例えば、生まれつき目が見えないことが、どういう状況で有利になるのか？」それこそ誰にも読めないことです。自然とは、無数の可能性の塊<sup>かたまり</sup>であって、全てを計算しきるのは神ならぬ人間には不可能ですから）

アマゾンのジャングルに一人で放置されて生き延びられる現代人はいませんね

ということは、「社会」というものが無い生の自然状態に置かれるなら、人間は全員「弱者」だということです

その「弱者」たちが集まって、出来るだけ多くの「弱者」を生かすようにしたのが人間の生存戦略なんです

だから社会科学では、「闘争」も「協働」も人間社会の構成要素だが、どちらがより「人間社会」の本質かといえば「協働」である、と答えるんです

「闘争」がどれほど活発化しようが、最後は「協働」しないと人間は生き延びられないからです

我々全員が「弱者」であり、「弱者」を生かすのがホモ・サピエンスの生存戦略だということです



いかがでしたか。みなさんは、この橋北中で「主体性」と「多様性」こそが「変化に対応できる力」なことを学んでいますね。卒業したみなさんがこの考え方を町中で発揮していけば、橋北は日本一可能性を秘めた町になります。話が上手な人も絵がうまい人も、自然が好きな人も ICT が好きな人も、素早い人もゆっくりな人も、誰もが自分の良さを発揮できる……。そういう優しい町になるといいなあ。橋北の町を愛する者の一人として、私も力を尽くしていきます。

『受験は団体競技』にもつながる考え方ですね。3年生は。あとひと踏ん張りです。最後まで、チーム力で乗り切っていこう！後輩の皆さんは、しっかりと感染対策して応援しよう！！